

第3回シンフォニックジャズ&ポップスコンテスト 課題曲

曲目解説

アンバー・ドリーム 作曲：星出尚志

タイトルの「アンバー・ドリーム」は、直訳すれば「琥珀の夢」ということになりますが、これはジンベースに作られた琥珀色のカクテルの名前です。

都会の喧噪に包まれたバーの片隅でアンバー・ドリームを傾けながら語らう男と女——じつはそれは一攫千金を夢見る危険な商談の偽装なのかも——そんなちょっぴりスリリングな大人のムードを感じながら演奏してみてください。

SJ&P_15 作曲：天野正道

この作品は、Bop 系のミディアムアップ～アップテンポの 4Beat で、アドリブソロ前半のリズムは、Afro-Cuban と 4Beat が交互に出てきます。その後お決まりの 4bars Change を経てテーマに戻りますが、5 Sax. soli、Brass section soli の応酬など、多分にビッグバンド的要素の多い曲です。

崩壊寸前ぎりぎりまでテンポを速めた演奏はスリリングですが、危険を伴います。ですからテンポ指定は幅を持たせています。私の吹奏楽作品以外でのレコードデビューは原信夫とシャープス&フラッツ結成 30 周年記念アルバム(1980 年)ですがそれ以来、ビッグバンドの魔力に取り憑かれてしまいました。

Caribbean Sundance (カリビアン・サンダンス) 作曲：真島俊夫

[スティールパン ソロ 有]

スティールパンはカリブ海に浮かぶ美しい島、トリニダード・トバゴ共和国で 20 世紀に生まれた、ドラム缶から作られた楽器です。トリニダード・トバゴではスティールパンで編成されたバンドも多く、カーニバルやコンテストで大活躍しています。その南国的な独特の音色で、近年、日本でも注目されるようになりました。

この曲は、スティールパンと吹奏楽のコラボレーションとして書きました。軽快なサルサのリズムにのせて、明るいメロディーが奏でられます。カリブ海の島々の美しい海岸や、太陽の光を感じていただければ幸いです。

聖者の行進 arr.真島俊夫

数あるアメリカの歌の中でも「聖者の行進」は子供から大人まで、誰もが知っているメロディーと言ってよいでしょう。特にサッチモの愛称で親しまれるルイ・アームストロングの歌とトランペット演奏が有名で、デキシーランド・ジャズを代表する曲となっています。一般的にはただ陽気な曲と思われていますが、20世紀初頭のアメリカ南部では、黒人奴隷のお葬式で演奏される事が多かった曲です。墓地まで棺を運ぶ時には「Free As A Bird」つまり「鳥のように自由に」という、日本では「追憶」というタイトルで知られるスペイン民謡を演奏しながら行進し、埋葬が終わると「聖者の行進」を陽気に演奏して、死者が神のもとに帰ったことを祝ったのです。つまり、黒人奴隷達は死んでやっと自由になれるのだという悲しい話でもあります。

このアレンジでは、その様式を再現しています。

最初、ニューオルリンズ・ジャズの編成と演奏で「Free As A Bird」が悲しげに演奏され、やがて「聖者の行進」のメロディーが聞こえてきます。

そして突然アップ・テンポのデキシーランド・ジャズ・スタイルとなり、各楽器がアドリブを演奏します。

そして最後はビッグバンド風へと盛り上がっていきます。

つまり、ニューオルリンズ・ジャズ、デキシーランド・ジャズ、ビッグ・バンド・スタイルの全ての要素を含んでいるので、ジャズの歴史の勉強にもなるでしょう。そして、サッチモの有名なフレーズで曲を閉じます。